

## 「民間活力により設置した野村ダム水力発電所で増電！」

～「環境」と「地域振興」を両立するハイブリッドダムの事業者を四国で初公募！～

再生可能エネルギーの活用の観点から、ハイブリッドダムの取組の一環として、野村ダムの放流水を活用した新たな水力発電（従属発電※）を行う「野村ダム新水力発電所設置・運営事業」の事業者を募集します。

国土交通省では、気候変動への適応やカーボンニュートラルの実現を目指し、治水機能の強化と水力発電の促進を両立させる「ハイブリッドダム」の取組を推進しています。

野村ダムでは既に管理用発電設備が設置されていますが、今回、新たに発電設備を増設し、水力発電と地域振興を図るため、「野村ダム新水力発電所設置・運営事業」の発電事業者（事業候補者）を選定する公募を開始しました。なお、本公募は国土交通省が管理するダムにおいて、四国では初の試みとなります。（公募の概要は、別添資料のとおり。）

また、応募要件等を記載した「野村ダム新水力発電所設置・運営事業」の募集要項等は、肱川ダム統合管理事務所のホームページに掲載しています。

※「従属発電」：ダムの目的となっている水道用水の供給等、利水の運用を利用して行われる発電

### 問い合わせ先

肱川ダム統合管理事務所ホームページ <https://www.skr.mlit.go.jp/hijikawadam>

X(旧 Twitter) [https://twitter.com/mlit\\_nomura](https://twitter.com/mlit_nomura)

国土交通省 四国地方整備局 肱川ダム統合管理事務所 Tel: 0894-72-1211(代)

副所長 南本 秀行（ミナモト ヒデユキ）（内 204）

◎ 管理課長 多田 寛 （タダ ヒロシ）（内 331）

◎：主な問い合わせ先

## 「野村ダム新水力発電所設置・運営事業」の 発電事業者（事業候補者）選定のための公募概要

「野村ダム新水力発電所設置・運営事業」は、野村ダムにおいて民間の資金、経営能力及び技術能力を活用し、効率的な整備及び維持管理・運営を実現するものです。

本公募は、肱川ダム統合管理事務所が、野村ダムの放流水を活用して水力発電事業（完全従属）を行う発電事業者（事業候補者）の提案を募集するものです。

本公募により特定された発電事業者（事業候補者）は、本ダムの放流水を活用した本発電所の設置運営に係る事業計画、資金計画、電気工作物等の設計・施工、管理運営等の取り組みについて、自らの責任において実施することとなります。また、事業候補者は、本発電所を設置・運営する際、特定多目的ダム法施行規則第7条に基づくダム使用权の設定申請等、必要な法令上の許可等手続及び四国地方整備局との基本協定締結が必要となります。

### ■事業箇所

一級河川肱川水系肱川（愛媛県西予市野村町野村地先）

### ■公募のスケジュール

募集要項等の公表・配布	： 令和7年1月15日（水）～令和7年5月15日（木）午後4時
募集要項等に関する質問受付	： 令和7年1月15日（水）～令和7年7月28日（月）午後4時
現地見学の受付	： 令和7年1月15日（水）～令和7年1月27日（月）午後4時
現地見学の実施	： 令和7年2月3日（月）※予備日2月4日（火）
プロポーザル参加申込受付	： 令和7年1月15日（水）～令和7年5月15日（木）午後4時
参加申込確認結果の通知	： 令和7年5月29日（木）
企画提案書等の受付	： 令和7年5月29日（木）～令和7年8月27日（水）午後4時
ヒアリング	： 令和7年9月10日（水）～11日（木）のいずれか
事業候補者の特定	： 令和7年11月（予定）

■「野村ダム新発電所設置・運営事業」募集要項等は下記 URL に掲載しています。

<https://www.skr.mlit.go.jp/hijikawadam/houdou/index.html>



# 野村ダムの概要

参考資料

## 《野村ダムの諸元》

- ダムの位置: 愛媛県西予市野村町野村
- 堤高(ダムの高さ): 60m
- 堤頂長(ダムの長さ): 300m
- 流域面積: 168km<sup>2</sup>
- 総貯水容量: 16,000千m<sup>3</sup>
- 有効貯水容量: 12,700千m<sup>3</sup>
- 目的: 洪水調節、かんがい用水、水道用水
- ダム完成: 昭和57年3月





# 野村ダムにおける民設民営による発電施設の新設

参考資料

○野村ダムでは、カーボンニュートラルへの対応のため水力発電を推進し、民間活力を活かしたダム周辺の地域振興を図ります。

## ハイブリッドダムとは

治水機能の強化、水力発電の増強のため、気象予測も活用し、ダムの容量等の共用化など※ダムをさらに活用する取組のこと。

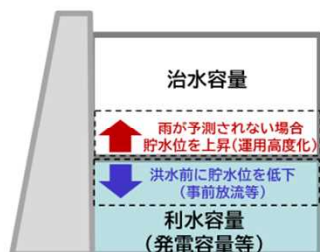
※「ダムの容量等の共用化」としては、例えば、利水容量の治水活用（事前放流等）、治水容量の利水活用（運用高度化）など。単体のダムにとどまらず、上下流や流域の複数ダムの連携した取組も含む。ダムの施設の活用や、ダムの放流水の活用（無効放流の発電へのさらなる活用など）の取組を含む。

### 取組内容

#### (1) ダムの運用の高度化

気象予測も活用し、治水容量の水力発電への活用を図る運用を実施。

〔洪水後期放流の工夫  
・非洪水期の弾力的運用〕など



#### (2) 既設ダムの発電施設の新増設

既設ダムにおいて、発電設備を新設・増設し、水力発電を実施。



発電設備のイメージ

#### (3) ダム改造・多目的ダムの建設

堤体のかさ上げ等を行うダム改造や多目的ダムの建設により、治水機能の強化に加え、発電容量の設定などにより水力発電を実施。



出典：令和7年度水管理・国土保全局関係予算概算要求概要 令和6年8月 国土交通省水管理・国土保全局

➤ 野村ダムでは、未利用の水力エネルギーを有効活用した再生可能エネルギー活用によるカーボンニュートラルの推進とダム所在地の地域振興を図る目的で、新たに増設する発電所を民間の資金及び技術力を活用し、効率的な整備や維持管理・運営を実現するもの。



# 既設管理用発電の現状

- 野村ダム上流流域面積: 168km<sup>2</sup>
- 使用水量: 1.6m<sup>3</sup>/s
- 有効落差: 51.2m
- 最大出力: 665kw
- 年平均発電電力量: 約4,430千kwh
- 年平均管理用消費電力: 約630千kwh

発電に利用  
できていな  
い放流水



既存管理用  
発電活用の  
放流水

【野村ダム下流を上から見た図】

野  
村  
ダ  
ム

